



## OPECプラス、5月も緩やかな増産維持 IEAデータ利用打ち切り

[ドバイ 31日 ロイター] - 石油輸出国機構（OPEC）加盟国とロシアなどの非加盟国で構成する「OPECプラス」は31日にオンライン形式で開いた閣僚級会合で、5月も現行の緩やかな増産ペースを維持することで合意した。

ウクライナ侵攻を受け西側諸国が導入した対ロシア制裁で原油価格が上昇する中、米国と国際エネルギー機関（IEA）は一段の増産を求めていたが、OPECプラスはこれを拒否。OPECプラスの共同技術委員会（JTC）はIEAのデータを利用しない方針を決定し、OPECプラスと西側諸国の対立が鮮明になった。

OPECプラスは昨年8月以降、日量40万バレルの増産を毎月継続。今回の会合で5月は日量43万2000バレルの増産を行うと決定した。

OPECの増産能力の大部分を持つサウジアラビアとアラブ首長国連邦（UAE）はこれまでも、OPECは政治に関与せずに原油市場の均衡に集中するべきとして、増産要求に抵抗。インベステックのカラム・マクファーソン氏は、「サウジアラビアは、ロシアの産油量が低迷しているときに増産を行えばロシアと対立するとし、こうした事態を避けようとしている」と述べた。

クウェートも、今回のOPECプラスの決定に支持を表明した。

ただ、OPECプラスはウクライナ紛争が長期化すれば世界経済は大きな打撃を受けると警告。ロイターが入手した内部報告書で「欧州だけでなく、世界中で消費者、企業信頼感が低下する」との見方を示した。

### < IEAデータ利用打ち切り >

OPECプラスの共同技術委員会（JTC）は、今後、IEAのデータを利用しないと決定。OPECプラスと米国を中心とする西側諸国の対立が背景で、JTCはIEAのデータに代えて、ウッドマッケンジーとライスタッド・エナジーのレポートを補助的な情報源として直ちに利用する。

IEAはパリに本部を置き、西側諸国の政府にエネルギー政策を助言している。



## 戦略物資調達で対策

### 経産省 石油、希ガスなど対象

経済産業省は31日、ウクライナ情勢で調達が危ぶまれる石油や希ガスなど7つの戦略物資について、安定供給のための対策をまとめた。別の産油・産ガス国への増産を働きかけ、希ガスやパラジウムでは省資源化・リサイクル技術の確立を急ぐ。希ガスの回収装置に関して化学業界への政策支援もありそうだ。

対象となるのは①石油 ②LNG(液化天然ガス) ③石炭(一般炭)④石炭(原料炭)⑤半導体製造用の希ガス(ネオン、クリプトン、キセノン)⑥パラジウム⑦合金鉄。世界的に、あるいは日本にとっ

てロシア・ウクライナ両国への依存度が高いことなどを基準に選定した。希ガスについては、5年ほど前まで両国が世界シェアの6割を占めていた。だが中国での設備増強、2014年のクリミア侵攻への危機感を背景に分散化が進展。現在は世界シェアの過半を欧州や中国でまかなえるようになった。

日本は輸入の6%を両国産が占め、大半は米国や中国から輸入している。短期的には各社の在庫で対応できるが、中長期的には減産を余儀なくされる可能性がある。希ガスは製鉄所などに酸素や窒素を供給する大型空気分離装置から副生される。回収・リサイクル装置の導入を政府が支援することを検討しており、決まれば来年にも具体的措置を始める計画。排ガス触媒に多用されるパラジウムは、世界シェアにおいても日本の輸入先としてもロシア依存度が4割と高い。南アフリカなどから代替調達を行い、メーカーにはリサイクル拡大の政策支援を検討中。ただし世界的なEV化を背景に鉱山投資が進まない懸念も残る。



# ウメモト インフォメーション



2022年 4月 1日 担当 小松

## 製品値上げ

### 東レがPPS

東レは、4月21日出荷分からポリフェニレンサルファイド(PPS)「トリナ」のコンパウンドグレードを1kg当たり65円、ベースポリマーを110円値上げする。原料や物流費が一段と高騰し、自助努力で吸収できる水準を超えていることから値上げを決めた。

### ADEKAが油脂加工製品

ADEKAは5月9日出荷分から油脂加工製品を値上げる。主原料である油脂、その他原料、包装材などのコスト上昇に対応する。対象製品と改定幅は、ショートニングが1kg当たり60円以上、マーガリンが同48円以上、ファットスプレッドが同36円以上、ハードバターが同60円以上、ホイップクリーム・練り込み用クリームが同40円以上、フィリングクリームが同20円以上、マヨネーズ類が同40円以上、バター調製脂が同160円以上、冷凍パイ生地類が同170円以上。

### 高級アルコールなど 62〜82円

#### 丸紅ケミックス

丸紅ケミックスは、4月25日納入分から主力輸入商品であるエクソンモーターケミカル製の高級アルコール「エクサール13(トリデカノール)」を1kg当たり82円、合成脂肪酸「ネオデカン酸PG」を62円値上げする。原料需給の逼迫や世界的に旺盛な需要などによって市況が急騰。自助努力で吸収できる水準を超えていることから値上げを決めた。

### 収縮ラベルや軟包装材 5〜10%

#### グンゼ包装システム

グンゼの連結子会社であるグンゼ包装システムは、4月1日受注分から収縮ラベルや軟包装材などの製品全般を値上げする。改定幅は5〜10%となる。原油・ナフサが高騰し、材料メーカーからの値上げ要請を受け入れざるを得ない状況。生産の合理化など徹底したコスト削減に努めてきた

が、自助努力だけでは吸収し切れず、安定供給のため価格改定を決めた。

### ランクセスが

### 酸化鉄顔料

#### 独ランクセスは、3月

23日付で酸化鉄顔料を世界的に値上げした。1kg当たりの改定幅はドイツ拠点製造分が400円(または相当する現地通貨)、ブラジル拠点製造分が200円の値上げ。酸化クロムも今後、金額を調整予定。具体的な内容は個別に連絡する。原材料やエネルギー、輸送コスト上昇に加え、ウクライナでの戦争による高値が続くと予想されることから値上げを決めた。



## 建材不織布 耐久性求める

### 防水シートの短命課題

防水性や気密性を持った建材として高機能住宅などに必要不可欠な不織布だが、今後はさらに耐久性が求められるようになりそうだ。高断熱・高气密住宅を手がけるラクジュ一級建築士事務所の本橋哲幸社長は、このほど開催した日本不織布協会（ANNA）産業資材部会分科会で講演し、住宅を設計する立場から、「外壁材では50〜60年と長持ちする素材が増えた

一方、防水シートが劣化して先に寿命を迎えてしまつと厳しい。できるだけ高耐久で性能の落ちない素材を作ることが大事ではないか」と述べ、メーカー各社による新しい高機能不織布素材の開発に期待感を示した。

住宅を建てる際、不織布は外壁材や屋根材の下に用いる二次防水素材や気密部材、換気フィルタ―として用いられている。住宅の高機能化、特

に断熱性を高めようとする、内部で湿気による結露が発生しやすくなり、防水性のある不織布のニーズが高まる。本橋氏は、「住宅が超高性能になるほど、不織布が必要になってくる」と説明。

さらに耐久性を持った不織布が求められる傾向にある。「建材の耐用年数はメーカーにもよるが、住宅調査を行うと、（外装材よりも）防水紙が先に傷んでしまつケースが多い」と述べ、今後の新素材には外壁材や屋根材と同程度の期間、性能を維持できる耐久性を求めた。また、防水シートをタッカー（ホッチキス）で取り付ける際に、タッカーの間から雨漏りが生

じる可能性があるとして、「日本製の防水性タッカーと不織布のセットが販売されればいいと思う」と述べた。



## レボインターナショナル、バイオ燃料を増産 愛知に新工場

バイオ燃料製造のレボインターナショナル（京都市）は2023年夏、愛知県内にバイオディーゼル燃料の製造工場を新設する。1日あたり3万リットルを生産する工場を建設し、同社の生産能力を倍増させる。投資額は約20億円。生産した燃料は国内の産業用機械など向けに販売する。脱炭素の潮流を受けて、国内でバイオ燃料の需要が増えていることに対応する。

同社は国内のバイオ燃料製造の先駆け。全国約2万5000店の飲食店などから引き取った廃食油を活用してバイオディーゼル燃料を製造しており、京都府内の工場で1日3万リットルを生産する。新設する工場は愛知県内に1万平方メートルの敷地を取得して建設する。今夏に着工し、23年夏に完成予定だ。生産能力は日産3万リットルで同社の生産能力は日産6万リットルと倍増する。